

Effect of hematuria on the outcome of IgA nephropathy with mild proteinuria.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 佳優 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31340

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2890 号	氏 名	田 中 佳 優
審 査 委 員 会	主 査 教 授	田 邊 一 成	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>IgA 腎症において、血尿の程度が予後に与える影響に関しては不明である。本研究の目的は、軽度蛋白尿を有する 88 例の IgA 腎症患者を対象に、血尿の程度が臨床経過や予後に与える影響を検討することである。尿中赤血球が 1 視野に 20 未満の症例 (L 群 40 症例) と 20 以上の症例 (H 群 48 症例) に分けて検討した。男性比と血圧は L 群で有意に高かったが、蛋白尿中央値と推定糸球体濾過率、オックスフォード分類による組織所見に有意差は認めなかった。腎生検 5 年以内では、自然経過で両群とも尿蛋白中央値 0.5g/日以下で、尿中赤血球は 1 視野 10 個未満に軽快していた。Kaplan-Meier 法を用いた 15 年腎生存率は両群で有意差を認めなかった。レニン・アンジオテンシン系(RAS)阻害薬は進行のリスクを減少させた。生検時の高度血尿は自然寛解し、軽度蛋白尿症例においては、血尿の程度による予後への影響はなかった。それらの症例の予後は比較的良好、RAS 系阻害薬加療は進行を抑制すると考えられた。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			